



from PARIS



ガレットデロワ

春を待つパリ



出勤時のエッフェル塔

パリは北海道わっかない稚内市よりも北に位置するため、パリの冬は暗く、長いです。朝は、暗い中、街灯に照らされた道を出勤し、9時頃ようやく明るくなります。夕方も、17時には真っ暗です。天気も曇りがちで、日中も薄暗く、太陽がみえない日も少なくありません。暗い日々の中では気分も落ち込みがちになります。

しかし、冬のパリにも、たくさんの楽しみがあります。クリスマスが近づけば、イルミネーションがあふれ、街を明るく照らします。最近、LEDが主流であり、一部は太陽光発電のものもあります。クリスマス・マーケットでは、温かい食べ物やツリーの飾りが売られます。ヴァン・ショー（リンゴやシナモン、生姜、蜂蜜しょうがなどが入ったホット・ワイン）を飲みながら、出店をひやかすのは楽しいものです。

正月明け、パン屋のショーウィンドウにはガレットデロワが並びます。これは、紙の王冠が載ったパイ生地のお菓子で、中にフェーヴというかわいらしい陶製

の飾りが入っています。イエス・キリストが神の子として見出されたとされる1月6日に、家族や仲間がガレットデロワを分けあって食べるのがフランスのならわしです。切り分けられたガレットデロワの中にフェーヴが入っていた人は、今年一年の幸運を得るといわれ、その日一日王冠をかぶって家族や仲間に祝福されます。

そして、1月から2月にかけてはソルド（セール）があります。倹約家のフランス人は、ソルドを本当に楽しみにしています。ただ、ここにも景気低迷の影響があり、ある調査機関は、ソルドの平均購入額を昨年より約1割少ない223ユーロ（約2万7000円）程度と予想しています。

ソルドが終わると、あとは春を待つのみです。3月後半には、一気に日が長くなり、明るくさわやかなパリの日々が帰ってきます。（日本銀行パリ事務所）



シャンゼリゼのイルミネーション。奥は凱旋門



*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。